**第３２回淡路市子ども・子育て会議　会議録**

**開催日：令和７年８月２０日（水）１３：３０～１５：３０**

**開催場所：津名ふれあいセンター２階　会議室３・４**

**出席委員：１２人　欠席委員：３人**

**傍聴人：０人**

**１　開会あいさつ　健康福祉部子育て支援担当　鯛部長**

**２　協議事項**

**（１）委員任期について**

現委員の任期が令和７年９月３０日で満了となるが、第３期子ども・子育て支援事業計画策定を行って間もないことなどから、現委員に次期期間も継続して就任承諾を依頼した。

**〇委員**　充て職委員は、次の方が決定したらその方に依頼することで良いか。

　●**事務局**お見込みのとおりです。

　　その他特に意見無し

　**（２）事業所内保育の定員について**

社会福祉法人千鳥会ちびっこランドぬくもりの利用定員の変更について事務局から説

明。ここ数年間、定員を上回る受け入れ状況が続いている。

このようなことから、ぬくもりから、利用定員を6人から12人に引き上げたいとの申し

出があり、市としても引き上げは妥当であると考えている。

**〇委員**現在定員をオーバーして受入とのことだが、スタッフの数はどうか。

**●事務局**　入所している15人に合わせて配置しています。

**〇委員**面積はどうか。

**●事務局**利用定員を12人に増やしても十分な広さを確保しています。

**〇委員**子ども・子育て会議において利用定員の変更を諮ることとなっているので、今回協議となっているが、施設が変更を申し出れば市は許可するのか、またどのくらい前から申出すれば変更が認められるのか。

**●事務局**本会議に図るということを前提に、変更を提出していただくことになります。

　　　　　　例えば令和8年4月から変更したい場合、変更申請を提出するにあたって今

回の会議に諮ることができれば変更の可能性はあります。

**〇委員**　元々定員6人で施設を作ったが、面積等で受入が可能だということかと思う。保育ニーズが高いので、受入人数を増やしたり、面積がＯＫというのはどこが判断するのか。

開園してから休日も開設しており、ニーズが高いということも実績数からも分

かる。今回変更12人だが、今後少しまた増える可能性もあるのか。

●**事務局**　　ぬくもりさんとの協議の中で、職員確保の面があるため12人での受入に留め

ておきたいとの意向でした。

**〇委員**定員12人とするが、15人の応募があれば受け入れするのか。

●**事務局**在園児童の卒園や転園児を考慮しても12人程度で抑えられるであろうと見込んでおります。

**〇委員**　　今回の定員変更は近年定員オーバーしていることから、ぬくもりさんからあっ

た話か、それとも市が指導に入ったからか。

●**事務局**ご指摘の両者から、ということになります。開設当初定員6人としたのも、近隣保育施設との兼ね合いもあり、状況を見ながらの実施を市からお願いしていました。しかし、近年予想を上回る状況になっているので市としても指導を行う必要があるとのことで今回に至っています。

**〇委員**保護者に聞くところでは、ぬくもりさんは預けやすいということで本当に人気

がある。定員をぜひ増やしていただけたら良い。

**〇委員**預ける側からしても、受入してもらいやすくなるのは嬉しい。以前は人数が少なく質の担保もあったと評判も良かった。預かる側からしたら、人数の増減が無い方が預かりやすいと思うし、預ける方とすればしっかり見てほしいと思う。12人と決めたらあまり動かさず、ルーティンがある方が働く方にもいい環境が生まれるのではないか。

**●事務局**　　皆様の貴重なご意見ありがとうございます。

**〇会長**協議内容にご承諾いただけますか。（異議なし）

　　　　　全会一致で承諾いただきました。

**３　報告事項**

**（１）子ども・子育て支援事業計画　令和６年度実績報告について**

令和6年度事業実績について資料に基づき報告を行う。加えて委員からの事前質問に対する回答も併せて行った。

**〇委員**一時預かり保育と１号認定との関連で、実績27人の子ども全員が一時預かりを利用しているように思う。1号よりも2号を保護者は希望しているのではないか。

**●事務局**令和6年度に本市において、2号認定の基準を近隣自治体と同条件に合わせました。従来は淡路市が国や近隣自治体よりも緩い要件だったものを見直ししました。

それにより、従来であれば2号認定の子どもが、本来の1号認定とされたことによる影響もあります。1号認定となったものの、保護者の就職活動等により保育ニーズが高いことによるものと考えられます。

　　　　　　1号認定により求職活動中で保育所に子どもを預けて就職先を探すという認定要件は、認定期間が3か月であり3カ月の間に就職された方は、認定条件が就労に変更となります。

**〇委員**津名子育て学習センターで以前実施していた「赤ちゃんの日」が今無くなっている。保護者からも要望があるが復活しないのか。

**●事務局**「赤ちゃんの日」は6か月未満の子どもさんだけが参加できる日のことですが、年々子どもも減っていく中で、同年代の子どもさんが集まりづらくなっていた状況があります。

せっかく学習センターにお越しいただいても誰も来ていない状態では、保護者同士の交流もできないとの考えの下、赤ちゃんの日をなくし、いつでもどの年齢の子どもさんも遊びに来ていただいてもいいようにしました。

　　　　　異年齢の子どもさんが利用することになるので、遊ぶスペースを区切って安全に配慮しながら開設していますのでご理解いただきたいと思います。

**〇委員**自身もよく学習センターを利用させていただいていた。子どもの年齢によって、センターに行く目的が異なってくると思う。３歳くらいなら保育園入園を想定して、子ども同士の交流が目的になり、６か月くらいなら子育てに関する情報の共有や相談になると思う。年齢によって部屋やスペースを区切るなどの工夫するもの良いのでは。

**〇委員**自身が利用していたセンターは話しやすい環境だったのでよく利用していた。距離感が近く、話しやすいのが良かった。寄り添ってくれているのがよくわかる。空間を区切るなどのニーズも、大事にすくい上げていくことが大切では。

話が戻って恐縮だが、先ほどの１号認定の話、自身のところがまさにその状況だった。午前だけの教育時間では友達関係のつながりを作るのがとても難しい。園の先生に相談したら、料金はかかることを説明の上で、利用を勧めてもらった。午後の一時預かりでの活動で、友達とのふれあいの時間が作れるので一時預かり保育を利用する人が多いのではと思う。

**〇委員**学習センターの赤ちゃんの日だが、１歳半までの利用とかいうように区切ったら利用しやすい保護者が増えるのでは。

**●事務局**いろんな地域から多くの利用者さんがお越しになっている状況ですので、すぐに赤ちゃんの日を復活させることは難しいですが、小さい子どもさんが対象のイベントなどを企画するなど、今年度いろいろ模索したいと思います。

**〇委員**放課後子ども教室のことだが、利用されている方は多いのか。とてもいい企画だと思う。

●**オブザーバー**　　この事業は社会教育課で所管しており、開始から19年目になります

　　　　　　　　　各地区で実施しており、全教室含めて130回くらい実施しており、参加者は1教室200人程度です。いろいろな体験を通して地域ぐるみで子どもを育むということで、地域の大人がボランティアスタッフとして登録していただいています。

　　　　　　　　　参加費については保険料のほか、教室によって材料代をいただいています。

　　　　　　　　　学童保育とは異なり、放課後子ども教室は高学年の子どもも利用でき、また学童保育と一体的に展開していくといった部分もあるので、放課後一緒に活動する形態もあります。

**〇会長**地域の人たちと交流できるというのが非常に魅力的だと思うし、淡路市の特色

や子どもの居場所に発展できればいいと思う。

**〇委員**妊婦健診受診券のことだが、いろいろな金種のチケットがあるがデジタル化は

できないのか。デジタル化してほしいと思う。

**●事務局**　　本日回答できませんので、担当部署に申し伝えます。

**〇委員**　自身も共働きで、6か月から保育所を利用させていただいていた。学習センター

も一度も利用したことが無かったが、こんなに子育て支援が充実していること

が分かり良かったと思う。

**〇委員**以前の子育て施策と今の施策を見比べても、少子化になってきている中でもよくなってきていると感じる。企業側も育児支援が増えて育児休業が延長できたりしているので、0歳児の入所が減ってきている。途中入所も難しいということもあり、家庭で子育てを行っているのだと思う。

**〇委員**支援が必要な家庭に対しても、令和6年度にこども家庭センターが開設したこともあり、結構連携も進んでいることを感じる。制度の利用までに行かなくても受け入れ施設と相談することも増え、協力関係を築くことができている。

　　　　　今までは支援が必要な家庭に課題が生じてからの後追い支援が多かったが、センターができたことにより、妊婦の段階から面談等のかかわりができることから見守る体制ができている。また、外国籍の家庭、子どもも増えており対応が増えている。

**〇委員**　　最近ドラッグストアで今まで割引クーポンの対象だったオムツや粉ミルクが対象外になったと保護者から聞いている。

物価高の中、少しでも支援をとのことで社会福祉協議会とNPO法人さんからオムツとおしりふき、おむつ用ごみ袋の配付があるが、もう少し市から支援をしていただくことはできないか。

**〇委員**限られた市の財源の中で、子育て施策以外にも様々な施策を実施している。今年度、副食費の無償化など実施しているなかで優先すべきところを検討し、担当部署が予算要求を行っていくものと思う。

**〇会長**皆さんからご意見等が出たようですので、この議題はここまでとします。

**４　その他**

　2025年度版子育てハンドブックの発行について

　　新設こども園基本構想・基本計画　概要版の配布について

　　次回の会議開催について

**５　閉会あいさつ　三浦副会長**

以　上